

第4回臨床プロテオミクス研究会[日本癌治療学会イブニングセミナー]

“臨床プロテオミクスのこれから—基礎から臨床へ“

友杉直久 【金沢医科大学総合研究所先進医療部門・腎機能治療学】

「腎がんのプロテオミクス」

腎細胞がん（RCC）は発生頻度は低いですが、致死率の高い泌尿器系がんのひとつである。RCCは、宿主の免疫応答が腫瘍増殖に大きく影響を及ぼしていると考えられており、インターフェロンやインターロイキン2などのサイトカイン療法は、手術療法に次ぐ治療として位置づけられているが、現時点では赤沈、CRPなどの炎症性マーカー以外は、前立腺がんのPSAのような有用なRCC診断マーカーはない。RCCは尿細管上皮細胞由来であるが、我々はヒト上皮細胞系がんにおいて、細胞間の接着が離れ、形態が変化、葉状偽足、糸状偽足が強く発現するEpithelial-Mesenchymal Transition(EMT;上皮間葉転換)を誘導すると、EMTが誘導された細胞は、新たにEMT誘導因子を分泌していることを見出した。これらの分泌因子は、既に明らかとなっているEMT誘導因子であるTGFβとは異なっていた。これまで多くの研究が癌のEMTと悪性度や予後との関連を示しており、プロテオミクス技術によるEMT誘導因子の解明は、新たな血清中の腫瘍マーカー探索法として期待される。